

## 概要

- ・国土交通省では、人流データを地方公共団体等の地域政策に活用することを支援する観点から、令和4年度に「人流データ可視化ツール」を作成したところ
- ・この可視化ツールは、地方公共団体等が計測・取得した人流データを流し込むことによって、人がいつ、どこに、どれくらいいるかについて定量的に把握することや分析が容易に可能となるものであり、無償で利用できるオープンソースとして広く公開しているところ
- ・今般、これまで利用者から寄せられた意見を踏まえた改良を施した「人流データ可視化ツール2.0」を作成し、新たなバージョンとして公開を行うもの

## 旧バージョンの課題 (利用者から多く寄せられた声)

- ①人流データを他の施設や区域などのデータと重ね合わせることができず、分析にあたっての利便性に欠ける
- ②人流データの抽出条件（性別や年齢など）を変更する場合、その都度人流データを加工したうえで可視化ツールに流し込む必要があり、手間を要する
- ③人流データ（ポイントデータ）からメッシュごとの集計機能がなく、別途集計処理が必要

## 新ツールの改良点

- ① 他の施設や区域等のデータ（GISデータ）との重ね合わせ機能を追加



- ② 一度人流データを流し込めば、自由に抽出条件を変更することが可能



- ③ 人流データ（ポイントデータ）を流し込むだけで125mメッシュ単位の集計値を表示することが可能

